

沖縄振興

～39年目の答え

政党代表者に聞く④

聞き手＝政経部・島袋晋作

「これまでの「沖縄振興」をどう評価するか。

「本土との格差是正を目指して社会資本整備はある程度進んだが、自立型経済の構築という点では、与えられた制度が大胆さをあまりにも欠いていた。国内の法律や制度の域を出ない特

別でも何でもない制度であったり、1人当たりの県民所得や高失業率などがなかなか改善されなかった」

「15兆円に上る沖縄関係予算もない状況になっている」

「改善できる仕組みを作れなかったのはなぜか。」

「大きな制度とは具体的にどのようなものか。」

沖縄が主体に政治家も

政党そうぞう

当間盛夫代表



「(元沖縄開発庁長官の)山中貞則氏をはじめ、いろいろな方が沖縄のことをやってきたが、結局は公共工事などの補助事業が中心だった。目に見えて『沖縄は特別だ』と分かるような大胆な制度を、本気でつくる姿勢が本土側になかったのでは

ないか」

「また、沖縄の政治力の弱さもあった。これまでの沖縄振興の中で出てくる政治家の名前は山中氏や(元首相の)橋本龍太郎氏など、本土の大物政治家ばかりで、その中に沖縄の政治家の名前は出てこない」

「現行法に代わる新たな沖縄振興にどう取り組む。」

「真に沖縄のためになる沖縄振興とするためには、今までは国が主体だった計画策定を、今後は沖縄が担っていく必要があると思う。従来よりも実現に向けたハードルは高くなるが、特に沖縄で政治に携わっている者がこの問題にどう関わっていくかが大きなポイントになってくる」

(おわり)